

< 国立市基本構想 「まちづくりの目標」の変遷 >

	第一期基本構想	第二期基本構想	第三期基本構想	第四期基本構想
まちづくりの目標	<p><b>構想の目標</b></p> <p>構想の目的を「人間を大切にすまち」と定めたが、この目的を達成するための目標を、次のように設定する。</p> <p>1. 文化を創造するまち 文化は、生活を美しくすることであり、美しいものを美しいと感じるのは、心のゆとりである。人間が大切にされないところには、したがって文化の創造はありえない。 あたらしい文化を創造するためには、先人の築いた伝統的文化の継承と発展が必要条件である。そのために、文化的環境を尊重し、文化の交流のための場を設け、その拡充をはかる。</p> <p>2. 教育を尊重するまち 人間と社会とを変革しうるのは教育である。教育は、過去を今日に生かし、今日を将来に発展させる。教育こそ、人類発展の根幹である。 国立市は、教育尊重の精神を目標に掲げ、教育行政の自主的な展開と創造的教育の発展を目指している。このため、わたくしたちは、学校教育、社会教育を問わず、積極的に参加し、国立市は、教育の「場」と「機会」とを豊かに提供することにつとめる。</p> <p>3. 生活を大切にすまち 文明とは、生活を容易にするものである、「文化」と「文明」が調和しあつたまちの発展を、わたしたちは期待する。 人間には強い人も、弱い人もある。ひとりの人でも、強いときもあれば、弱いときもある。誰もがいつでも、安心して生活できるまちでなければならない。そこから社会福祉の充実・市民の健康確保が求められ、公害や防災、経済の問題が大きな課題となる。 なお、今後発展が期待される地域については、現状と調和のとれた方策を考える。</p> <p>4. 自然を保護育成するまち 現在の国立は、自然の中でなお散策を楽しむことができることを誇りとしている。これは、自然と人間の親しい触れ合いであって、東京という都市環境の中で他に類をみない。現存する森と川と緑は、どうしても保存しなければならない。それにとどまることなく、失われたよい環境を取り戻すために、積極的な緑化を推進していかなければならない。これを、わたしたちが子孫に遺す最大の遺産の一つとしたい。</p>	<p><b>まちづくりの目標</b> 活力ある文化的都市創造をめざして</p> <p>(副題) 活力ある文化的都市創造をめざして</p> <p>(前文抜粋) 新構想においては、このことを明確に認識し、活力ある文化的都市創造をめざしたまちづくりの目標を設定しなければならない。 まず、市民と都市の理想像を設定する。そして、発展するまちづくりの大きな条件として、将来人口の規模と土地利用の方向を明らかにする。</p> <p>(2. 都市像) 都市像を「文教都市くにたち」とする。 この都市像は、<b>市民および市政が、自然と人間の限りない調和を求め、安全・快適・健康な市民生活を確保するとともに、国立にふさわしい教育と文化を想像することの中に実現する。</b> また、ここで、都市像「文教都市くにたち」を支える言葉として、「<b>緑と文化とふれあい</b>」(Green-Culture-Community)を提唱する。</p> <p>(事務局注釈)第二期基本構想においては、「まちづくりの目標」の小項目として市民像や都市像などがあります。大項目全体で「まちづくりの目標」を表現しており、該当する小項目がないため、他の基本構想での「まちづくりの目標」と同様の概念と整理される部分を抜粋しました。</p>	<p><b>まちづくりの目標</b> 3. 2005年の国立 いきいきとした文化都市の創造を目指して</p> <p>21世紀へ向かい、社会の成熟化とともに、価値観の変化が顕著になり、ゆとり、やすらぎなど心豊かな地域社会づくりが求められるが、そのためには同時に、まちに活力がありいきいきとしていることが必要である。 このことをふまえ、めざすべき“2005年の国立”の理想、すなわちまちづくりの目標を次のように設定する。</p> <p>(1) 緑豊かでふれあいのあるまち ・ 高齢者や障害をもつ人々が、いきいきと生活しているまち ・ 空が広く、端正なまちなみのつづくまち ・ ハケの緑や湧水が豊かで、蛍のとびかうまち</p> <p>(2) 誇りをもって次世代へ引き継ぐまち ・ 都市の基盤整備がすすみ、隅々まで文教都市の香りがするまち ・ 歴史的文化的遺産や自然が保全され、資源が循環するまち ・ 子どもたちが、水に親しみ土とたわむれ、のびやかに育つまち</p> <p>(3) 人が交わり文化を創造するまち ・ 個性的な店に魅かれ、人々がつどいにぎわうまち ・ 市民が、大学や学校と気軽に交流している生涯学習のまち ・ 多様な文化や価値観をもつ人々が、いき交い心の通い合うまち</p>	<p><b>くにたちの将来像</b> 1. 将来像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人びとのつながりを大切にし、互いを認めあい、ともに暮らしています 言葉を交わし、あいさつを通じて出会いが生まれ、さらに人びとのつながりがひろがっていきます。そこには互いを認めあい、支えあう想いもあります。くににたちに関わる全ての人びとの自覚と意識と協調が、くににたちをつくっていきます。</li> <li>● 子どもたちが遊び、お年寄りがまちで暮らす風景があります 子どもたちが、まちかどや路地で楽しそうに遊び、そのそばで立ち話をしている人たちがいます。高齢者もしょうがいしゃも安心して快適に暮らしています。人びとは行き交い、お店や通りは活気にあふれ、みんな楽しく過ごしています。</li> <li>● 季節の風を感じ、豊かな文化とのかかわりがあります 人びとは、四季折々の彩りを楽しみながら心豊かに暮らしています。さまざまな生きものの暮らしも大切にされています。そこには音楽があり、絵画があり、人びとの語らいがあり、文化や歴史が息づいています。</li> </ul> <p>(事務局注釈)第四期基本構想における「将来像」は、従来の市民像、都市像とまちづくりの目標を包含する内容となっていますため、資料 2-2「市民像」の欄に掲載した部分を、「まちづくりの目標」の欄にも再掲しました。</p>

太字等は事務局による